

令和2年度 丹波篠山黒豆情報

第3号 令和2年8月24日 丹波篠山市・JA丹波ささやま・丹波農業改良普及センター

*丹波篠山市内6カ所に調査定点を設置しています。

【生育】(令和2年8月21日丹波篠山市定点調査結果より)

	主茎長(cm)	主茎節数(節)
令和2年	59.9	15.3
平年(過去10カ年平均)	70.5	17.8
平年比	85%	86%
令和元年(参考)	68.3	18.2

- 主茎長は平年(過去10ヶ年平均)比85%で短く、主茎節数は平年比86%と少なくなっています。
- 梅雨明け(7月31日頃)以降、高温で降水量が少なかった(7/31~8/21までの降雨量は平年の6%、昨年の8%※アメダス柏原観測所データ)ことから、乾燥ストレスにより根の養水分の吸収が阻害され、根域も狭く、生育が停滞しているほ場が散見されます。

【病害虫】(令和2年8月21日丹波篠山市定点調査結果より)

	立枯性病害 株率(%)	カメムシ類 虫数/株	ノメイガ類 被害株率(%)	サヤムシガ 被害株率(%)	アブラムシ類 頭/小葉	ハダニ類 頭/小葉
令和元年	2.33	0.00	3.33	7.50	0.01	1.00
平年(過去10カ年平均)	2.50	0.10	4.50	16.79	0.05	0.33
平年比	93%	0%	74%	47%	20%	303%

- 立枯性病害(茎疫病、黒根腐病など)の発生は、平年よりやや少ない傾向です。
- カメムシ類、ノメイガ類、サヤムシガ、アブラムシ類などの害虫の発生は、平年より少ない傾向です。
- 梅雨明け後、高温・乾燥が続いたことから、ハダニ類の発生が一部のほ場で多発しており、平年に比べ多い傾向です。
- ハスモンヨトウのフェロモントラップによる誘殺数は8月以降、増加傾向で推移しており、8月20日現在では、平年よりも多い傾向です。既に、一部のほ場でハスモンヨトウの若齢幼虫が多発しています。
- 一部のほ場でダイズシストセンチュウの発生が見られます。

【今後の対策】

1 排水対策

- ①立枯性病害の発生は平年並みですが、今後、ゲリラ的な降雨による停滞水が要因となり、特に、茎疫病の発生が増加することも予想されます。排水口を整えたり、排水溝と排水口を確実につなぐなど、ほ場の排水対策の徹底に努めましょう。
- ②茎疫病が発生した場合は、発病株を早急に抜き取り、抜き取った株は、ほ場外に持ち出して処分するとともに、薬剤防除を行いましょう。

上記の「薬剤防除」における防除薬剤については、必ず「丹波篠山黒大豆栽培こよみ」で確認してください。

2 害虫対策

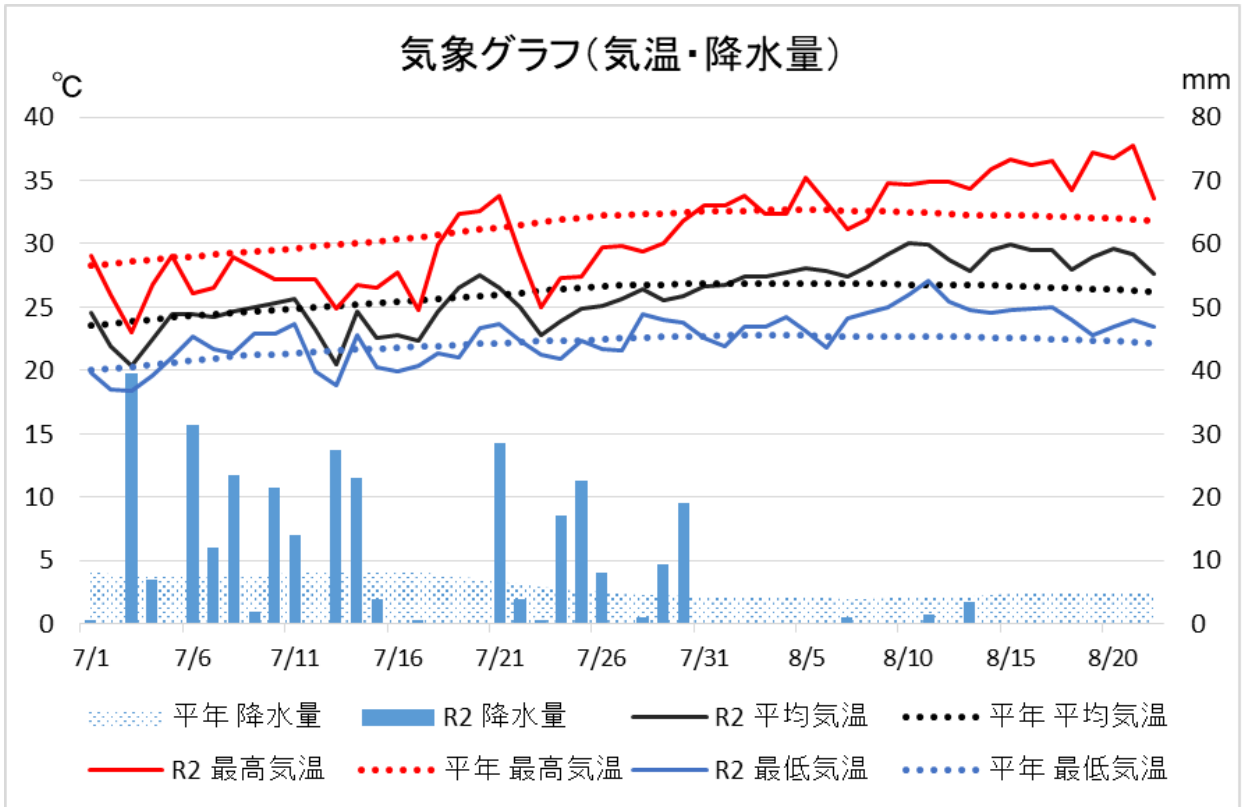
- ①ハダニ類が一部のは場で多発していることから、被害葉が見られた場合は、薬剤防除を実施しましょう。
- ②平年に比べて発生が少ないですが、カメムシ類、マメシクイガ、フタスジヒメハムシなどは、着莢期、莢肥大期に莢を吸汁・食害して被害が大きくなるため、定期的な薬剤防除を徹底しましょう。
- ③ハスモンヨトウのフェロモントラップによる誘殺数は増加傾向となっています。食害を受けて白く見える葉（白変葉）は早めに除去し、薬剤防除を実施しましょう。
- ④ダイズシストセンチュウの発生が見られる圃場があります。作業順序（発生ほ場は最後に回す）や作業方法（農機具や長靴などを洗浄）を工夫し、シストを含んだ土壌が拡散しないように注意しましょう。

上記の「薬剤防除」における防除薬剤については、必ず「丹波篠山黒大豆栽培こよみ」で確認してください。

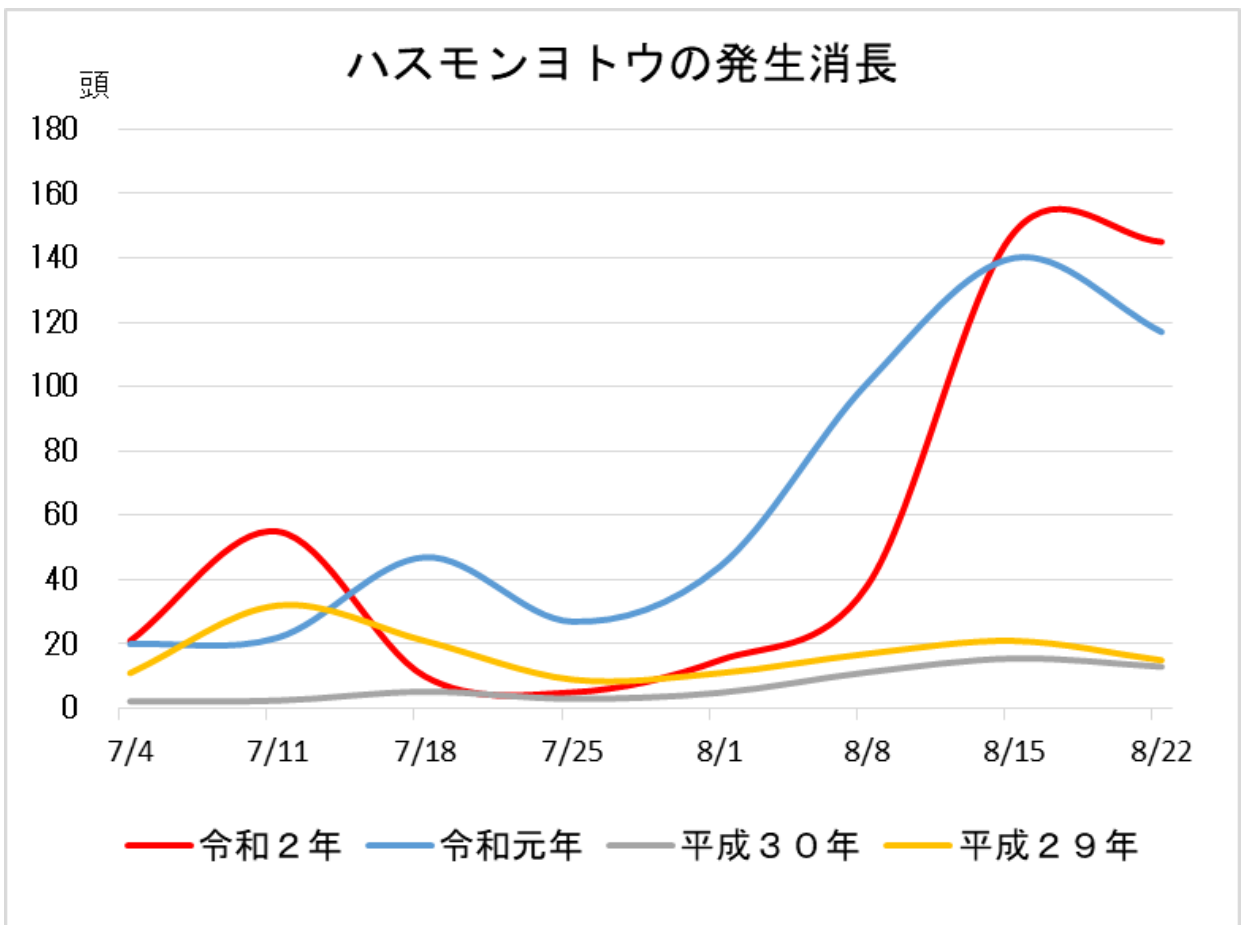
3 干害対策

- ①降雨が少なく、ほ場が乾燥した状態が続く場合は、メールマガジンで送られる土壌水分データを参考にしながら、谷が白く乾く前にかん水を行いましょう。特に、粒肥大期（9月中旬）にかけて土壌水分が不足すると、落花・落莢を引き起こし、着莢数や莢重の減少につながります。
- ②かん水は、日中の暑い時間は避け夕方または早朝に実施し、水は溜めたままにしないようにしまししょう。かん水後の長期の停滞水は逆に湿害を招く恐れがあるため、注意しまししょう。

【参考1：気象データ】



【参考2：ハスモンヨトウフェロモントラップ】



※令和2年度は8月20日時点の調査